

平成 30 年 8 月 13 日 作成 全 炳俊  
平成 30 年 8 月 29 日 修正 原田 貴之, 近藤 康太郎  
平成 30 年 9 月 21 日 修正 全 炳俊

第 15 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング  
(ビーム物理研究会世話人会)議事録

日時 : 2018 年 8 月 10 日 (金) 12:00~13:20

会場 : ハイブ長岡 2 階 会議室 AB

出席者(順不同・敬称略) : 24 名

羽島 良一、鷺尾 方一、大塚 崇光、不破 康裕、近藤 康太郎、原田 貴之、澁谷 達則、  
佐藤 大輔、水島 康太、菅 晃一、浦川 順治、佐古 貴行、平 義隆、森田 裕一、  
栗本 佳典、下川 哲司、住友 洋介、松葉 俊哉、藤本 将輝、坂上 和之、山田 逸平、  
池田 翔太、濱 広幸、全 炳俊

司会 : 近藤 康太郎 書記 : 全 炳俊、大塚 崇光

配布資料 :

2018F-1 : 前回議事録

2018F-2 : 日本物理学会若手奨励賞について

2018F-3 : 日本物理学会学生優秀発表賞について

2018F-4 : ビーム物理研究会 2018

2018F-5 : ビーム物理研究会の会則について

2018F-6 : ビーム物理研究会の WEB page について、日本物理学会理事会からの指摘(7/17)

議事内容 :

1. 前回議事録確認

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連

2-2. ビーム物理研究会関連

2-3. 日本加速器学会関連

3. その他

3-1. ビーム物理研究会 会則の見直し(羽島代表)

3-2. ビーム物理研究会の WEB page について、日本物理学会理事会から指摘(7/17)

3-2. 次回の総会・世話人会

## 1. 前回議事録確認 (資料 2018F-1)

2018年3月23日に開催された日本物理学会第73回年次大会(2018) ビーム物理研究会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録(配布資料 2018F-1)について、内容確認が行われた。事前にメールにて配布しており、時間的な制約から内容の読み合わせは省略されたが、意見・コメントは無く、承認された。

## 2. 報告・審議事項

### 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連

#### [大会関連]

##### 前回の年次大会について

2018年3月23日に開催された日本物理学会第73回年次大会(2018)での講演数、一般講演数の推移、他領域との比較、所属機関別内訳、他領域との合同セッション発表件数の内訳、招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演、若手奨励賞に関して報告がなされた。また、全領域の概要集提出率について報告があった。詳細については既に『日本物理学会第73回年次大会(2018)ビーム物理領域インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)議事録』で既報であり、そちらを確認されたい。

実験核物理領域からの提案があり、実験核物理領域と素粒子実験領域との合同セッション「J-PARCの加速器・測定器技術」の名前を「大強度加速器・測定器技術」に変更する事となったとの報告があった。J-PARCに限らず、幅広く大強度加速器を使った実験についての発表を集めたいとの趣旨。それでも実験核物理領域からの参加が増えない様であれば、実験核物理領域がこの合同セッションに参加しなくなることも考えられるとの事(素粒子実験領域とは継続の方針)。

また、2019年の年次大会に向けた合同セッション申込〆切が9月25日であるとのアナウンスがあった。新たなご提案があれば相手領域・タイトル案を領域運営委員までお知らせください。

シンポジウム講演申し込みの〆切は例年通り、11月頭とのアナウンスがあり、そこで、羽島代表からシニアな方には是非とも積極的にシンポジウム講演を考えて頂きたいとのコメントがあった。

##### 若手奨励賞について

前大会では、福島 慧氏(ミシガン州立大学)が受賞した事が報告された。今年の応募〆切は7月31日であったが、応募者が居らず、8月15日まで延長となった。博士論文も審査対象となるため、積極的な応募が望まれる。これまでは郵送のみであったが、電子メールでも受け付けるという事となった。

募集要項について、毎年、応募件数が少ない事を受け、羽島代表からハードルが

高すぎるのでは無いかとのコメントがあった。また、応募資格の年齢制限や条項について質問があり、領域の裁量に任されており、変更も可能である事が確認された。

#### 2019年秋季大会でのシンポジウム・企画講演について

主催はしないが、他領域との共催でシンポジウム講演 1 件、企画講演 2 件の開催が決定している。

シンポジウム講演： 9/15 13:30 – 17:15 S12 会場(信州大学)

素粒子実験領域、素粒子論領域、ビーム物理領域共催

「いよいよ実現へ向け動き出す ILC 計画 – グリーンライトに備えて –」

企画講演： 9/14 13:30 – 14:30 S20 会場(信州大学)

素粒子実験領域、ビーム物理領域共催

「Belle II 実験はじまる：SuperKEKB 加速器での初衝突と Phase II 運転」

「Belle II 実験はじまる：Belle II 測定器の初期性能」

#### 秋季大会での他領域との合同セッションについて

今秋季大会では領域 2 との合同セッションが予定されている。領域 10 との合同セッションに関しては募集要項中で言及があるが発表は無い。今後も秋季大会での領域 2 との合同セッション希望の問い合わせの可能性が高いが、今後どうすべきか議論がなされた。秋季大会にはプログラム編成等に関わらないので、積極的には募集要項上では募集せず、相手側からの依頼があれば妨げないとの方針となった。また、件数が増えてきた場合、再度議論するとの合意がなされた。

#### 2019年次大会までのスケジュール

2019年次大会までのスケジュールが確認された。「素宇」は2018年9月14日から17日まで信州大学・松本キャンパスで、「核」が2018年10月23日から27日までアメリカ合衆国ハワイ州・ハワイ島で、「物性」が9月9日から12日まで同志社大学・京田辺キャンパスで秋季大会が開催される。第74回年次大会は2019年3月14日から17日まで九州大学伊都キャンパスで開催される。シンポジウム、招待・企画講演の〆切(Web受付)は11月頭、一般講演の申込期間は10月下旬から11月下旬と予想される。申込に向けた準備をお願いします。

#### 日本物理学会 学生優秀発表賞について

羽島代表から資料 2018F-3 を用いて説明があった。前インフォーマルミーティングにて決定した実施要綱を日本物理学会に提出した旨、報告があったと共に、受賞人数や審査対象についてアナウンスがあった。受賞人数は最大5名で、講演申込み一週間前までに発表者本人または指導教官によって、領域代表に審査対象となるこ

とを申し出る事で、審査対象者にエントリーされる。

## **[領域運営関連]**

### 執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会ならびに日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。現執行部の体制は以下の通り。任期は2017年4月から2019年3月まで。また、次期領域副代表は広大の栗木 雅夫氏である。

<ビーム物理研究会>

会長：羽島 良一(QST)

副会長：鷺尾 方一(早大)、佐々木 茂美(上海科技大)

<日本物理学会ビーム物理領域>

代表：羽島 良一(QST)

副代表：鷺尾 方一(早大)

<事務局>

量子科学技術研究開発機構

茨城県那珂郡東海村白方 2-4

### 次期領域運営委員について

現領域運営委員の全 柄俊氏(京大)の後任として、分子研の藤本将輝氏が推薦され、承認された。任期は2019年4月から2020年3月までの1年間となる。

### 2019年次大会の懇親会について

領域2からの合同懇親会の打診について報告があった。もし、2019年次大会前に再度、打診があった場合は、合同懇親会を実施する方向で調整する予定となった。また、前回開かれた領域2の懇親会についても紹介があった。

## **2-2. ビーム物理研究会関連**

### **[研究会関連]**

#### ビーム物理研究会・若手の会 2018 について

ビーム物理研究会・若手の会 2018 は、量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所の主催で2018年11月20日から22日(研究会：20-21日、若手の会：21-22日)の会期で開催予定である。羽島代表から資料(2018F-4)を用いて会場・招待講演者などの概要の報告があった。研究会の web page は8月中に公開し、参加・発表申し込みの受付を開始する予定との事。

若手の会は本会終了後に各自個別移動(1時間弱)、18時頃から懇親会を開始し、翌日午前からセッション開始の予定。会場は幕張セミナーハウスを予定。学生の交

通費、宿泊費は全額補助(少し早めに申請〆切の必要あり). 学生発表賞も前回同様、設ける予定.

### **[研究運営関連]**

#### ビーム物理研究会・若手の会の活動報告 (JAEA 原田氏より)

まず、若手の会の立ち上げに関して設立経緯や趣旨、現行体制、ホームページなどの報告がなされた。5月21日に正式な入会申込受付を開始し、現在81名。内訳としては、学生が21名と最も多い。100名くらいを目標にしている。

次に、日本学術会議の若手アカデミー/若手科学者ネットワークへの参加状況について報告があった。若手アカデミーにおける若手の定義は45歳未満で、その活動は政策提言・サミットの開催・アニュアルレポート発行である。登録団体は230程度であるが、アニュアルレポートを提出しているのは20程度と少ない。そのため現時点から積極的に行動する事でイニシアチブを取れる可能性ある。学術の動向に特集号が組まれていて、そこに寄稿した。

若手科学者サミットへの参加し、ポスター発表を行った。口頭発表の部は優秀発表賞があり、もし、話したい人が居れば連絡して欲しいとのこと。ポスターは11件あり、分野が最も近い会は放射光学会であった。ビーム物理は幅広く、他分野にもユーザーが居るので、話しやすく交流を深めやすい点に強みがある。パネルディスカッション(議題「良い研究とは」)についても報告があった。Top10論文というものを指標にして、評価を考えていることが分かった。また、研究の質と量だけでなく、「厚み」も考慮せよとの提言もあった。参加者は40名程度(去年は50名)。来年も参加予定。ポスターセッション中に、放射光学会の若手の会から合同研究会に関する提案があった。

日本加速器学会の学会誌へのビーム物理研究会・若手の会に関する寄稿依頼があった。現在、坂上氏と執筆中である。

#### 若手の会 2017 での若手発表賞について

若手の会 2017 にて若手発表賞を授与した事について報告があった。対象者は学生もしくは任期付研究者。審査員(7名)による10段階評価。評価指標を明確にした。受賞者には賞状と副賞を授与。15分の発表を20名が実施。結果として4名が受賞(内学生2名)。若手の会 2018 も同様の形式で実施する予定。

### **2-3. 日本加速器学会関連**

第16回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2019年7月31日(水)～8月3日(土)

共催：京都大学、QST 関西光科学研究所

会場：京都大学吉田キャンパス

備考：会期中にインフォーマルミーティング・ビーム物理研究会拡大幹事会を開催

### 3. その他

#### 3-1. ビーム物理研究会 会則見直しについて

羽島代表より資料(2018F-5)を使って、兼ねてより検討している会則の見直しについて簡単な説明があった。世話人会を幹事会に変え、幹事会の構成人員を明確にしたり、日本物理学会との関係を明確にする等の改正を検討中。今度の3月の総会で正式な承認を得たいと考えており、後日、改正案をメールにて回覧するとのこと。

#### 3-2. ビーム物理研究会のWEB page について、日本物理学会理事会から指摘(7/17)

羽島代表より資料(2018F-6)を使って、指摘事項について説明があった。Web pageのコンテンツ、リンクを少し修正し、理事会の要求を満たす形にしたとのこと。

#### 3-3. 次回の総会・世話人会

次回の総会は2019年3月14日(木)～17日(日)に開催される日本物理学会第74回年次大会(九州大学・伊都キャンパス)の会期中に行う。世話人会(拡大幹事会)は2019年7月31日(水)～8月3日(土)に開催される第16回日本加速器学会年会(京都大学・吉田キャンパス)の会期中に行うことが確認された。